

横浜市地域まちづくり推進条例 20 周年記念 トークイベント開催記録 -概要版-



市民による地域まちづくりを支援する「横浜市地域まちづくり推進条例」が制定されてから 20 年。若い世代がまちづくりに参加する事例も増えている今、これまでの地域まちづくりの取組を振り返るとともに、地域まちづくりの未来をともに考える場としてトークイベントを開催しました。

【日時】令和 7 年 12 月 21 日（日）14:00-16:30

【会場】横浜市役所 議会棟 3 階 多目的室（中区本町 6-50-10）

【参加者】約 100 名

【プログラム／登壇者】

第 1 部 基調講演／法政大学法学部政治学科 教授 名和田 是彦 氏

第 2 部 パネルディスカッション／パネリスト 内海 宏氏、岩室 晶子氏、関口 春江氏、北原まどか氏
（ファシリテーター／名和田 是彦 氏）

第 1 部 基調講演／名和田 是彦氏

横浜市地域まちづくり推進委員会の委員長を長年務めていただいている法政大学の名和田是彦教授から、「横浜市地域まちづくり条例の 20 年をこれからの地域づくりに生かそう！」と題し、基調講演を行っていただきました。条例制定に至る横浜市のコミュニティ政策の展開、地域まちづくり推進条例の制定、その後 20 年間の運用と成果も含め、これまでの経緯を丁寧に振り返った上で、今後の地域まちづくりの課題についても触れていただきました。



【主な内容】

●地域まちづくり推進条例制定に至る横浜市のコミュニティ政策の展開と条例制定

1990 年代の「コミュニティ行政研究会」を契機に、横浜市は地域施設を拡充し、暮らしやすい都市の基盤を形成。2000 年代は地域福祉計画の導入や「協働」を理念とした横浜市政を背景に、地域まちづくり推進条例が 2005 年に制定されました。



●条例の運用と、施行後 20 年で見えてきた成果

地域まちづくり推進条例施行から 20 年で、ヨコハマ市民まち普請事業や横浜・人・まちデザイン賞など市民の創意工夫を生かす取組が定着。地域まちづくり組織やルール・プランの認定も進み、制度運用の成果が現れているとともに、近年は制度改革の取組として、地域福祉保健計画等にもとづく空間整備を支援する「市民主体の身近な施設整備事業」も創設され、さっそく成果を上げています。

●条例と横浜市の地域まちづくりの課題

人口減少と高齢化の進展により地域まちづくりの課題は変化し、従来の制度運用や人材確保が難しくなっており、どのように敷居の低い場を作り関心を持ってもらうかが重要です。また、地域のコーディネーター間の連携強化や、地域福祉保健計画との連携、派遣専門家の不足問題への対応等が今後の課題です。



第 2 部 パネルディスカッション

様々な分野でまちづくりに携わっている 4 名の方にご登壇いただき、前半は各パネリストにご自身の取組について紹介していただいた上で、後半は「これからの地域まちづくりを考えよう」をテーマに、今後の地域まちづくりに関する展望について、意見が交わされました。



●住民・社会ニーズに伴いまちづくりは多彩に！／内海 宏 氏（株式会社地域計画研究所 代表取締役）

条例制定においては幅広い参加と段階的な制度設計により「使われる条例」をめざしてきたことや、中間支援の重要性についてお話いただきました。建築協定更新時の担い手不足などを課題としてあげ、今後の住まい手の多様なニーズへの対応や多様で弾力的なまちづくりを実施する仕組みの在り方の追求、地域資源を活用した豊かな暮らしの実現、若者発意の新たなまちづくりの提案・チャレンジ等、新たな対応の必要性が示されました。



●子ども参画のまちづくり／岩室 晶子 氏（NPO 法人ミニシティ・プラス 事務局長）

子どもが主体的に地域の課題に向き合ったり、地域を取材したりする取組を通じて、考え行動する力を育む取組が紹介されました。地域活動の現場では、子どもがやるのが予め決められていることが多い中、企画段階から関わる機会を増やすことで主体性を育み、子どもの力をまちに参画させていくことが、将来の地域の担い手にもつながることをお話いただきました。



●コミュニティで活用する空き家の可能性／関口 春江 氏（753 プロジェクト co-founder／ひとときデザインニ級建築士事務所 所長）

空家を改修した「Co-coya」を、用途を固定しない「無目的スペース」として位置づけ、複数の地域拠点や場がゆるやかにつながり、面的なまちづくりが広がっていることを紹介いただくとともに、暮らしに根ざした拠点づくりが、人の交流や新たな地域参加（小さな自治）を生み出す可能性について伝えていただきました。また、長期視点でまちづくりの理念を持った、土地所有者の存在の重要性についても語られました。



●まちづくりに「ゴール」はない 日々の軌跡を蓄積するメディアの役割／北原 まどか 氏（認定 NPO 法人森ノオト 理事長）

ローカルメディアの取組を通じて、市民が地域に関わる入口を広げてきた活動を紹介いただきました。丁寧な取材と編集のプロセスが人とまちの関係を育み、日々の営みを記録する「まちのアーカイブ」として、持続可能なまちづくりを支えていることが伝えられました。また、ローカルメディアを取材・編集するプロセスが、人と人をつなげ、結果的にまちづくりにつながっていることもお話されました。



■パネルディスカッションで引き出された、これからの地域まちづくりの視点

- ・年齢や世代を問わず、地域の中で意欲ある人が活動に挑戦できる手上げ型の実行体制の重要性
- ・人口を増やす前提ではないまちづくり、住宅地の更新
- ・住宅の機能に限定しない、空家の様々な用途でのコモ的な活用
- ・子ども・若者が地域で役割を担える機会の創出、将来の担い手になることの可能性
- ・顔の見える小さな単位でのコミュニティ形成（小さな自治）
- ・インターネットや SNS 等を活用した（ローカルメディアによる）新しいまちづくりの可能性



令和7年度 ヨコハマ市民まち普請事業 4つの施設整備提案を助成対象に決定!

～市民による身近なまちづくりのアイデアが実現へ～



ヨコハマ市民まち普請事業は、市民の皆様が主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設整備の提案に対して、支援・助成を行う横浜市独自の事業です。

令和8年1月25日(日)に「令和7年度ヨコハマ市民まち普請事業2次コンテスト」を開催し、公開審査の結果、創意工夫・実現性・公共性・費用対効果・地域まちづくりへの発展性の5つの基準に基づき、**4つの提案が整備助成対象に選考されました!**

今後、グループ自らの整備により、まちづくりの提案を具体化していきます。

整備助成対象に選考された4つの提案

【まちしるべ～掲示板の活用でつながるまちづくり～】

鶴見西口活性化委員会(鶴見区)

街の魅力に触れられる情報拠点「まちしるべ(自治会掲示板を活用した情報ボードや案内板等)」を整備。情報発信を通じて地域の一体感の醸成を目指す。

【評価ポイント】「地域の人に自分達の街を知ってもらおう」という目的に特化したことや、整備後の活用方法等、細部まで十分に検討していたことが評価された。



【歴史でつなぐ多文化共生・多世代交流のまちづくり】

生麦事件参考館リユースプロジェクト(鶴見区)

長く親しまれてきた私設の「生麦事件参考館」を、地域主体で多世代・多文化交流できる学びと発表の場として再整備する。

【評価ポイント】プレオープンで実践を重ねたことや、多世代のネットワークを作れたこと、展示や整備内容を具体化していたこと等が評価された。

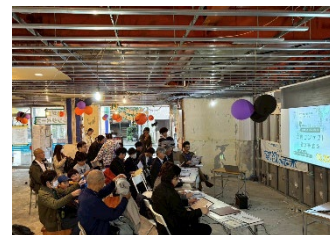


【希望が丘チャレンジベース～まちのコンシェルジュ～】

希望が丘みらいデザインチーム(旭区)

入口にコンシェルジュを配置し、カフェやイベントスペース等多様な機能を備えた拠点。住民が気軽にチャレンジし、交流と学びが生まれる場を目指す。

【評価ポイント】学生と企業、地域団体が連携して、活動を次々と展開し、皆で試行錯誤しながら、場づくりに挑む姿勢が高く評価された。



【横浜駅西口水辺憩いの空間の植栽整備】

横浜駅西口トリコロールリバー(西区)

横浜駅西口の水辺に、陽光桜やベンチ等を整備し、地域と協働で育てる花壇を設けることで、日常的に安心して利用できる「憩いの空間」の再生を図る。

【評価ポイント】安定した運営体制や、まち普請をきっかけとしたまちづくりのビジョンが提案されていたことが評価された。



裏面あり

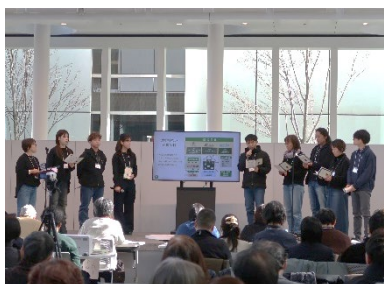


GREEN × EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



2次コンテストの様子



緊張感溢れるプレゼンテーション



審査員との質疑応答



結果発表

ヨコハマ市民まち普請事業とは

市民の皆様が主体となって行う地域の課題解決や魅力向上のための施設整備の提案に対して、支援、助成を行う横浜市独自の事業です。二段階の公開コンテストを経て選考された提案には、50万円～500万円の整備助成金を交付し、まちづくりを支援します。

<次回(令和8年度)の提案募集等について>

令和8年度の提案募集開始!【提案募集期間】2月12日(木)～5月29日(金)17時必着

①無料でまちづくりの専門家からアドバイスが受けられます!

3月31日(火)までに事前登録をされたグループには、提案書提出までの期間にまちづくりの専門家を市から派遣します。

②令和8年度提案者向け見学バスツアーを開催します!

提案を検討されている方向けに、まち普請で整備された施設を見学するバスツアーを開催します。まち普請の先輩から、まちづくりのコツや提案のヒントになる話をさせていただきます。

【開催日】3月8日(日) 12時00分～16時15分(予定)

【見学場所】ぷらっと kiricafe(緑区)(コミュニティカフェ)

中川駅前中央遊歩道(都筑区)(緑化等による魅力的な遊歩道づくり)

町カフェ城郷ノスタルジア(港北区)(地域連携HUBとなるカフェ)

【申込期限】2月27日(金)17時まで 【参加費】無料

まち普請事業への応募、バスツアーへの参加を検討・希望される方は、下記担当までご連絡ください。

<担当連絡先>

都市整備局地域まちづくり課まち普請事業担当

[電話] 045-671-2679

[E-mail] tb-seibiteian@city.yokohama.lg.jp



◀ まち普請事業
ウェブページ

まち普請



お問合せ先

都市整備局地域まちづくり担当課長 中尾 光夫 Tel 045-671-2665



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



ごあいさつ

横浜は、港町ならではのウォーターフロントをはじめ、豊かな自然環境、歴史的な街並み、活気あふれる商店街など、多彩な魅力を有しています。また、市内での様々な市民活動や強い地域のつながりなど、横浜の“市民力”も誇るべき強みです。そしてこれらは市民・企業・団体の皆様によって、支えられています。

このたび「横浜・人・まち・デザイン賞」を受賞された皆様の取組は、様々な創意工夫や個性豊かなデザインなどにより、横浜のまちづくりや景観の新たな価値とより一層の魅力につながっています。横浜市は、引き続き、皆様と連携しながら、誰もが自分らしくいきいきと暮らすことのできる「住みたい・住み続けたいまち」や世界を魅了するグローバル都市の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

横浜の魅力・にぎわいを高めてくださっている受賞者の皆様に厚く御礼申し上げるとともに、皆様の今後益々の御活躍を心より祈念しております。



横浜市長
山中 竹春

横浜・人・まち・デザイン賞について

表彰目的

横浜市内での地域まちづくりに関して特に著しい功績のあった活動や、都市景観の創造や保全に寄与したまちなみを構成する建造物等を顕彰して、魅力あるまちづくりをより広く進めていくことを目的としています。

今回の募集状況

募集期間 令和7年5月1日～6月30日 募集結果 地域まちづくり部門：応募総数 39件(うち選考対象 30件)
まちなみ景観部門：応募総数 59件(うち選考対象 45件)

選考基準

地域まちづくり部門

横浜市内における、おおむね3年以上の取組実績がある地域まちづくり活動の主体である団体を対象としています。また、表彰対象の活動を支援した個人または団体も表彰します。

- 1) 地域の魅力向上や、課題を見出して解決につながっている活動
- 2) 熱意を持って主体的に取り組まれている活動
- 3) 多様な地域住民に開かれ参加・参画している活動
- 4) 活動の独創性、地域資源(人、空間など)を生かした活動
- 5) 継続性・発展性・波及効果が見られる活動

まちなみ景観部門

横浜市内の「まちなみ」や「建造物等」で、おおむね10年以内に新しく造られたものや、歴史的建造物等再生されたものを対象としています。

- 1) 地域の個性と魅力にあふれた新しい都市景観の創造に寄与しているもの
- 2) まちの活性化に寄与し、賑わいのある都市景観を形成しているもの
- 3) 歴史的なまちなみ、及び自然景観の保全に寄与し、又はそれらと調和を保っているもの
- 4) 横浜らしさの演出に寄与しているもの
- 5) 都市景観と環境や福祉への配慮などの先進的な取り組みが調和しているもの

各部会長講評

地域まちづくり部門

横浜市地域まちづくり推進委員会
表彰部会長 片岡 公一

第12回を迎えた本部門には、39件に及ぶ多様な応募をいただきました。今回は既存の枠組みに捉われない新たな主体や活動が目立ち、「地域まちづくり」の現代的な意義を改めて問い直す貴重な機会となりました。選出された9団体は、独自の切り口で地域の魅力や住民の主体性を引き出す工夫に溢れ、多くの示唆に富んでいます。この表彰は過去の功績を称えるだけでなく、その価値を社会へ広く共有し、次なる活動への道標となるものです。本賞が、横浜の未来を拓く新たな挑戦への力強いエールとなることを願っております。

まちなみ景観部門

横浜市都市美対策審議会
表彰広報部会長 三輪 律江

本賞まちなみ景観部門には59件もの応募があり、重複等を除いた45件が審査対象となりました。今回は商業施設やオフィスビル、リノベーションした民間施設や公園休憩所といった建物から、エリアを面的に捉えたものなど多様で、そのほとんどが他薦であったことは、市民の皆様が多くのご関心を寄せていただいていることの証であり、心より御礼申し上げます。選考にあたっては、書類を基に13件の現地視察を行い、その後各委員が推薦した11件を中心に、単体の表層的なデザインだけでなく、点から面へと広がるまちへの波及、官民が市民と共に創り育てていくプロセスや事業スキーム等、横浜らしいまちなみ景観について多角的な議論を経て、最終的に7件を選出しました。今後も、横浜らしい共創・協働なまちなみ景観が生まれ育まれていくことを強く願っています。

第12回 横浜・人・まち・デザイン賞 表彰対象一覧

地域まちづくり部門

- 1 全かなスリッパ卓球選手権大会(保土ヶ谷区)
- 2 まちを楽しむストリートファニチャーデザインコンペティション(中区)
- 3 横浜18区の人とまちがつながるTSUBAKI食堂18区丼プロジェクト(中区)
- 4 「みんなのリビング」を目指して(磯子区)
- 5 竹山団地プロジェクト(緑区)
- 6 親子のたまり場「すくすくかめっ子」(神奈川区)
- 7 道の愛称ネクスト(南区)
- 8 ぶらっとkiricafe(緑区)
- 9 ～まち×学生～キャンドルナイト(神奈川区)

まちなみ景観部門

- 1 横浜シンフォステージ(西区)
- 2 星天qlay(保土ヶ谷区)
- 3 横浜BUNTAIとホテルコメント横浜関内(中区)
- 4 Bosch Forum Tsuzuki(ボッシュフォーラム つづき)(都筑区)
- 5 根岸森林公園トイレ 丘の小道(中区)
- 6 ウェスティンホテル横浜 / アパートメントベイ横浜(西区)
- 7 THE WHARF HOUSE YAMASHITA KOEN(中区)



地域まちづくり部門
横浜市地域まちづくり推進委員会 表彰部会

- | | |
|--------|--|
| 片岡 公一 | 株式会社山手総合計画研究所代表取締役 |
| 加藤 功甫 | 特定非営利活動法人 Connection of the Children代表理事 |
| 鈴木 智香子 | NPO法人街カフェ大倉山ミエ理事 |
| 高村 典子 | 市民委員(公募) |
| 淵元 初姫 | 法政大学ポアソナード記念現代法研究所客員研究員 |

まちなみ景観部門
横浜市都市美対策審議会 表彰広報部会

- | | |
|--------|-------------------------------|
| 三輪 律江 | 横浜市立大学大学院都市社会文化研究科教授(建築・都市計画) |
| 青木 祐介 | 横浜開港資料館・横浜都市発展記念館副館長 |
| 北原 まどか | 公募市民委員 |
| 真田 純子 | 東京科学大学環境・社会理工学院教授(景観) |
| 東海林 弘靖 | 照明デザイナー・LIGHTDESIGN INC. 代表 |

全かなスリッパ卓球選手権大会

活動団体名 スリッパ卓球実行委員会

活動概要

神奈川県各地域にある商店街においてスリッパを使った卓球大会を開催、予選会を制した選手が頂上決戦で聖地和田町商店街に集結し、神奈川のチャンピオンを決めます。スリッパ卓球という「ゆるいスポーツ」を通じて、商店街と地元企業が地域住民とつながる機会を創出するとともに、本来商店街が持っていた人と人の顔が見える関係を再構築しています。開催初年度からイベントのマニュアルを作成、全国で希望される商店街にも配布し、知名度を上げ全国で開催・発展できるよう、メディアへの積極的な働きかけも行ってきました。

表彰理由

保土ヶ谷区の和田町商店街から始まったスリッパ卓球選手権は、保土ヶ谷区の全商店街、横浜市内から神奈川県内へと活動を広げています。「スリッパ卓球」というゆるいスポーツに真剣に取り組み、地域商店街と地元企業や地域住民がつながる仕組みを作り上げました。スリッパがつなく地域と商店街の輪の広がりを期待しています。

活動場所 神奈川県内全6地域11商店街

活動団体の詳細はこちら

<https://www.slipper.yokohama/>
<https://www.facebook.com/hamanotoudai/>

ホームページ フェイスブック



▲全かなスリッパ卓球選手権大会の様子



▲試合風景

▲表彰式

活動を支援した個人または団体

- (一社)横浜建設業協会
- (一社)神奈川県建設業協会横浜支部
- (一社)神奈川県建設業協会
- 建設業労働災害防止協会神奈川支部横浜西分会
- 建設業労働災害防止協会神奈川支部
- 公財)横浜市スポーツ協会 ●公財)神奈川県スポーツ協会
- 横浜市卓球協会 ●(一社)神奈川県卓球協会
- 保土ヶ谷区商店街連合会 ●(一社)横浜市商店街総連合会
- 神奈川県商店街振興組合連合会 ●(公社)商連かながわ
- NPO法人ハマのトウダイ ●チーム和田街 ●FM上星川
- NPO法人ぎんがむら ●相鉄ホールディングス株式会社

まちを楽しくするストリートファニチャーデザインコンペティション

活動団体名 ストリートファニチャーコンペ運営委員会

活動概要

横浜のまちをより魅力的にするため、2015年から開始された「ストリートファニチャーデザインコンペティション」は、国内外からまちを楽しくするファニチャーのデザインを募集し、優秀作品を実際に製作・設置する取り組みです。公開審査や体験型展示を通じて、市民が見て触れられる場を創出し、企業・行政・クリエイター・市民をつなぐ横浜発のデザイン文化を育てています。これまで応募は毎回100件を超え、協賛企業も100社以上に及びます。第7回では、2027年国際園芸博覧会に向け「花と緑」をテーマにコンペを実施しています。

表彰理由

「まちを楽しくする」をキーワードに行われるストリートファニチャーデザインコンペティションは、地域の団体とも連携し、その時々を社会的ニーズや地域の課題に即したテーマで実施されています。公開審査を経て、設置イベントで公共空間を彩るストリートファニチャーが、横浜のまちをより魅力的にすることを願っています。

活動場所

実作設置イベント開催場所
(グランモール公園、赤レンガ倉庫広場、
横浜市役所水辺プラザ、伊勢佐木商店街等)

活動団体の詳細はこちら

<https://streetfurniture.jp/>
https://www.instagram.com/streetfurniture_competition
https://x.com/sfdc_yokohama

ホームページ インスタグラム X



▲作品展示の様子(横浜市役所水辺プラザ)



▲作品展示の様子(グランモール公園)



▲一次審査会

▲公開審査会

横浜18区の人とまちが繋がるTSUBAKI食堂18区井プロジェクト

活動団体名 株式会社よこはまグリーンピース

活動概要

横浜市庁舎内の飲食店「TSUBAKI食堂」を拠点に、毎月1区をテーマにした「18区井」を提供し、横浜18区の魅力を発信するプロジェクトです。地産地消を軸に、各区の食材や文化、人を紹介しながら、食育や学校との連携、交流イベントを実施しています。これまでに1万食以上を提供し、区民や生産者、企業とのつながりを生み出しています。今後は「横浜を地産地消の代表都市にする」というコンセプトのもと、消費者と生産者が近い横浜ならではのスタイルで、地産地消をテーマにしたコンテンツを展開する「横浜村」構想へと発展させ、食を通じた地域連携を目指します。

表彰理由

横浜の農産物の地産地消を通して、18区を横断する人のつながりを作っていくという取り組みは、都市農業が広がる中でとても意欲的で可能性を感じさせました。毎月の丁寧なその区らしい素材、レシピ、人の掘り起こしに頭が下がります。今後の「横浜村」の展開も大変興味深く期待しています。

活動場所

横浜市役所内の商業施設にある、
横浜野菜や地産地消の魅力が体験できる
飲食店「TSUBAKI食堂」を拠点に、横浜市全域

活動団体の詳細はこちら

<https://dokohoru.base.shop/>
https://www.instagram.com/tsubaki_shokudou
<https://www.facebook.com/tsubaki.ygc>



▲18区井ナイトフェスティバル



▲横浜18区井 磯子区

▲TSUBAKI食堂外観

活動を支援した個人または団体

- ノガン株式会社 ●横浜おいしんぼエンジェル
- 有限会社シュービ
- 株式会社Woo-By.Style(ウッビースタイル)

支援内容

18区井のデザイン提案やイベント調整、情報発信の支援を行いました。横浜村実現への伴走支援にも貢献されています。

ホームページ インスタグラム フェイスブック



「みんなのリビング」を目指して

活動団体名 洋光台南第一住宅管理組合、洋光台四街区自治会

活動概要

団地中央に位置する集会所のリニューアルを行い、多世代交流を生み出す場の維持・運営を行っています。昼間は高齢者を中心とした健康体操やサークル活動、放課後は子ども達の集う場になることで、地域活動拠点として住民の交流と活動の活性化を実現。管理組合、自治会、老人会、住民有志から運営チームが組織され、柔軟で機動的な意思決定が可能となっており、集会所利用のサポート、イベントの企画・実施は住民有志のボランティアが担います。各自の創意工夫、スキル発揮が生きがいや楽しみにつながり、無理なく運営を継続できる体制を実現しています。

表彰理由

集会所の再整備から始まる住民自治の取り組みが、時間をかけた対話を重ねてしっかりと醸成され、「創作的・機動的に動ける自立・分散型の運営」を実現していることが、団地再生のロールモデルとして高く評価されました。住民の幸福度を住民自身で上げていける「みんなのリビング」です。

活動場所

磯子区洋光台南第一住宅管理事務所棟(四街区集会所)



▲記念の集合写真



▲みんなで楽しむワークショップ

▲音楽イベント

活動を支援した個人または団体

- ①株式会社都市環境研究所
- ②株式会社スタジオ・クハラ・ヤギ
- ③南洋光クラブ ④みどり同好会
- ⑤洋光台四街区ロボット愛護会 ⑥アンサンブル四街区

支援内容

①設計段階から利用法を検討し、新しい集会所運営を実現②住民ニーズを反映した設計・運営の支援③広報等でイベント参加とコミュニティ形成を促進④花壇整備などで環境美化と団地の魅力向上に貢献⑤効率的な管理で良好な住環境づくりを支援⑥音楽イベント継続で文化活動を活性化させました。

竹山団地プロジェクト

活動団体名 神奈川県住宅供給公社、学校法人神奈川大学、NPO法人KUSC

活動概要

入居者の高齢化や健康指標の低下、コミュニティの希薄化等の課題に直面する竹山団地において、団地の開発者である神奈川県住宅供給公社と神奈川大学が連携協定を締結し開始した連携プロジェクトです。公社賃貸住宅上層階の空き戸を同大学のサッカー部に賃貸し、全員(60名超)が「寮的」な環境で共同生活を行いながら、商店街に整備した拠点等を活用し、団地・地域に様々な交流を生み出しています。「サッカーだけに捉われない幅広い視野をもった人間を育てたい」という構想のもと、自治会と連携しながら、学生の地域活動参画と共同生活を通じた総合教育が実践されています。

表彰理由

高齢化が進む団地を舞台に、大学・公社・NPO・自治会が有機的に連携し、「健康・つながり・まち」を同時に育てている点を高く評価しました。学生が積極的に地域に入り、日常の関係を築いている点も特筆すべきで、本取組がモデルケースとなり、同様の活動が各地に広がっていくことを大いに期待します。受賞、誠にありがとうございます。

||活動場所 緑区竹山団地

||活動団体の詳細はこちら

<https://www.kanagawa-u.ac.jp/cooperation/project/takeyama/>

ホームページ



▲神奈川大学サッカー部出身者のリーグ加入内定の記者会見



▲健康ランチ(神大喫茶)

▲卒業生送別会で住民が学生のためにマスを釣ってきました

活動を支援した個人または団体

●竹山連合自治会

◆支援内容

学生入居前の地域活動計画づくりから日常生活支援まで寄り添い、拠点運営のモニタリングや特別委員会による広報・助言も実施。新施設の認知向上と住民理解の促進、学生のモチベーション支援など、多方面でプロジェクトを支えました。

親子のたまり場「すくすくかめっ子」

活動団体名 特定非営利活動法人親がめ

活動概要

神奈川県で25年続く「親子のたまり場すくすくかめっ子」は、世代を超えた交流を生み、孤立しがちな子育て家庭の不安の軽減を目指し、地域ぐるみで子育てを支える居場所づくりを進めています。月1~2回、区内47か所で乳幼児と保護者が気軽に集える場を提供。運営はそれぞれの地域が担っています。活動は町内会館や公園など身近な場所で行われ、保育園や学校、行政、NPOとも連携しながら、利用者が支え手となる循環を生みだし、地域資源を活かした柔軟な運営を行っているのが特徴です。SNSでの情報発信も強化し、地域全体で子育てを見守る文化を生み出しています。

表彰理由

25年にわたる「町ぐるみでの子育て・子育て支援」は、地域に根付いた大切な文化として定着していると感じます。そこには、活動を継続し、地域に根づかせてきた多くの工夫や学びがありそうです。今後ますます重要となる子育て環境や地域のつながりづくりを通して、さらに豊かな地域文化が醸成されていくことを期待しています。

||活動場所

神奈川県内47か所

||活動団体の詳細はこちら

<https://kanaoyagame.com/>

ホームページ



▲各子がめ代表スタッフ集合写真



▲町内会館での様子

▲公園内のかめっ子でパラバルーンあそび

活動を支援した個人または団体

①NPO法人こどもと未来-おひさまでたよ-
②社会福祉法人横浜市神奈川区社会福祉協議会
③毎日の生活研究所

◆支援内容

①子育て支援の意義を学ぶ場づくりを通じて地域で支援者が成長し続ける基盤を形成②事業を支える助成金制度の創設をはじめ、継続的な伴走③ファシリテーターとして事業を深め、人材の裾野を広げる支援を行いました。

道の愛称ネクスト

活動団体名 南永田山王台連合町内会広報 道の愛称ネクスト

活動概要

南永田・山王台エリアで2019年に始まった「道の愛称ネクスト」は、地域の主要な道に愛称を付け、看板や広報誌を通じて歴史や文化を発信する取り組みです。安全で親しみやすいまちづくりを目指し、地域住民が主体となり、看板や子どもたちが作成したイラストプレートを設置。年4回発行する広報誌「道の愛称ネクスト」は3500部を配布し、歴史散歩や交流イベントも開催しています。地域の学校やケアプラザ、行政とも連携し、今後もウォーキングプログラムや防災啓発、歴史講座などを通じて、地域資源を活かした学びと交流を広げていきます。

表彰理由

地域の道に愛称をつけるという夢にあふれたプロジェクトです。地域の団体や住民の皆さんが協力して話し合い、プレートやパネルを作成・設置する活動を通して、まちの魅力が明確に発信され、地域の活力につながっています。広報誌によるPRや、まちあるきの実施によって、道への親しみを高める工夫もされていて、今後の発展が大変楽しみです。

||活動場所

南区南永田山王台連合町内会とその周辺



▲イベント後の交流の様子



▲町歩きの様子

▲登り窯イベントの様子



◀道の愛称ネクスト 広報誌

ぶらっとkiricafe

活動団体名 NPO法人霧が丘ぶらっとほーむ

活動概要

少子高齢化に加え、インド国籍の方が800人以上住む霧が丘で活動していた3つの団体が、ヨコハマ市民まち普請事業にチャレンジし、ぶらっとkiricafeをオープン。街の「大変」が「楽しみ」に変わる連鎖が広がることを大切に、小さな困ったことを助け合い、学び合い、地域みんなで解決する仕組みをつくることで、人の温かさが感じられる地域づくりの実現を目指しています。子育て、シニア、国際交流の3つの部門を柱に様々な取組が行われ、世代や国籍を超え誰もがぶらっと立ち寄り、繋がりが持てるような居場所づくりを行っています。

表彰理由

誰かがお客さんになるのではなく、誰もが主体的な担い手として関わり、自然に交わっていく姿が印象的です。ヨコハマ市民まち普請事業の採択時以上に、活動を重ねる中で関係性が深まり、世代や国籍を越えた信頼が育まれている点を高く評価します。これからも活動がさらに魅力的に深化していくことを期待します。受賞、誠にありがとうございます。

||活動場所 緑区霧が丘

||活動団体の詳細はこちら

<https://www.kirigaokaplatform.com/lit.link/platform>

ホームページ



SNS



▲カフェの利用風景



▲書道体験ワークショップ

▲シニアウォーラーを探せイベント

活動を支援した個人または団体

①ぶらっとkiricafeボランティアスタッフ一同 ②高橋 律夫
③一般社団法人青葉台工務店
④横浜市立義務教育学校霧が丘学園小学部元6年1組児童一同
⑤霧が丘地区老人クラブ連合会

◆支援内容

①安心できる場づくりと継続的な運営に貢献②声かけや企画でシニアの参加を促し地域のつながりを強化③カフェの施工と運営助言で、効率化や運営力アップに貢献④多彩な企画を実施し、子どもや地域住民の参加を促進⑤ボランティア募集を支援し、活動基盤の安定に貢献しました。

～まち×学生～キャンドルナイト

活動団体名 NPO法人まち×学生プロジェクトplus

活動概要

2018年開始のキャンドルナイトは「誰でも参加できるまちづくり」を掲げたまちの風物詩です。身近な資源である紙パック等をリサイクルし、家を模したホルダーを一人一人が制作します。出展や出資等で40を超える団体が協働し、コロナ禍でも分散開催等の工夫により、その灯りを絶やさずに継続してきました。3,000超のホルダーが集まる神奈川大学での一斉点灯と街中での点灯、多様な企画を通じ、子どもからお年寄りまでが地域活動の楽しさ・面白さに触れ、自らの手でまちを豊かにするという、主体的なまちづくりの契機を創出し続けています。

表彰理由

地域を支える大人と、このまちで学び暮らす若者との強い信頼関係を感じました。「誰でも活動に参加できるように」との想いを込めてキャンドルホルダーには牛乳パックが利用されています。約3000個の灯りとともに、賑わいのある六角橋地区に「まちかけ」という新たなサードプレイスが形成されつつある様子に期待しています。

活動場所 六角橋地区を中心とした
神奈川区全域

ホームページ インスタグラム

活動団体の詳細はこちら

<https://www.matikake.yokohama/candlelight>
https://www.instagram.com/candle_matikake/



▲キャンドルナイトのメンバーによる集合写真



▲キャンドルホルダー点灯

▲モニュメント

活動を支援した個人または団体

- ①六角橋自治連合会 ②学校法人神奈川大学
- ③Route7プロジェクト
- ④公益財団法人アイネット地域振興財団

◆支援内容、支援を受けたことによる効果

①住民参加を促す制作・広報を行い、活動を地域の恒例行事として定着化②公的な場の提供により信頼性が高まり、備品・学生確保による継続運営を支援③多様な団体をつなぐハブになり、活動の裾野拡大に貢献④イベントの開催支援とフィードバックにより、活動の改善を支援しました。

星天qlay

概要

「星天qlay」は、相鉄本線・星川駅～天王町駅間(全長1.4km)の連続立体交差事業により生まれた高架下空間に、ショップ・レストラン・シェアレジデンス・コワーキングスペース、保育施設など、5つのゾーンで構成される多彩な空間を展開しています。各建物の間には芝生広場やプロムナード状の通路などが組み込まれており、線路で分断されていた場所が、まちと人をつなぐ空間に生まれ変わりました。

講評

高架下空間を活用して小さなボリュームで分棟配置されたテナントが点在し、オープンスペースがゆるやかに全体をつなぐ、まさに「点と点がつながり星空のようにまちを描く」空間になっていると感じます。「ウォークアブルなまち」は今後のまちづくりのキーワードになってくると考えられ、1.4kmという全長を市民が歩く中で、たくさんのお会いや発見がある仕掛けづくりと、そこから生まれる共創を期待します。

所在地

保土ヶ谷区
星川、神戸町、天王町



- 事業者:株式会社相鉄アーバンクリエイツ、株式会社相鉄ビルマネジメント 相鉄不動産株式会社、相模鉄道株式会社
- 企画:YADOKARI株式会社
- 設計者:株式会社オンデザインパートナーズ、株式会社東急設計コンサルタント
- 外構デザイン:株式会社スタジオ ゲンクマガイ、株式会社STUDIOSOW
- 施工者:京王建設横浜株式会社、坪井工業株式会社 神奈川支店 東鉄工業株式会社 横浜支店



横浜シンフォステージ

概要

「横浜シンフォステージ」は、オフィス・ホテル・店舗等にて構成される2棟構成の大規模複合施設で、横浜駅とみなとみらい地区を繋ぐ歩行者ネットワークの軸線上に位置しています。「ランプリング(気ままなブラブラ歩き)」をテーマに、ペDESTリアンデッキに面して飲食店やオープンカフェなどを設けるとともに、多層的に性格の異なる広場を配置し、新たな出会いにぎわい・イノベーションが交差する空間を形成しています。

講評

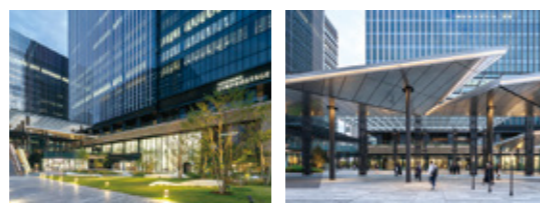
みなとみらい地区の主要な都市軸である「キング軸」と「グランモール軸」が交差する結節点に立地しており、横浜駅からつながる歩行者ネットワークのあらたな拠点として、ペDESTリアンデッキと多彩な表情をもつプラザ(広場)を舞台に、賑わいが連続する空間が生み出されています。みなとみらいの構想から60年を経て、計画の最終段階における重要なピースの完成を感じさせます。

所在地

西区
みなとみらい



- 事業者:
株式会社大林組
ヤマハ株式会社
京浜急行電鉄株式会社
日鉄興和不動産株式会社
みなとみらい53EAST合同会社
- 設計・施工者:
株式会社大林組



横浜BUNTAIとホテルコメント横浜関内

概要

「横浜BUNTAI」は、1963年から58年のあいだ「文体」の愛称で親まれてきた横浜文化体育館が老朽化に伴い閉館し、2024年にPFI事業により生まれ変わりました。「ホテルコメント横浜関内」は、民間収益施設として横浜BUNTAIと一体整備され、外観の曲面は、横浜BUNTAIの「横浜の浜風になびく帆」をイメージした流線型のフォルムと連続したデザインとなっています。市民に親まれてきた「文体」の歴史・文化を継承し、人・文化・まちをつなぐ交流拠点を創出しています。

講評

2つの建物が一体的な曲線をモチーフにデザインされており、それらが街並みに良いリズムを与えています。公共施設である横浜BUNTAIと民間施設であるホテルを一体的に整備する事業スキームが提案され、それをデザインに活用出来たことも要因であろう。

所在地

中区
不老町



- 【横浜BUNTAI】
- 事業者:株式会社YOKOHAMA文体
- 設計者:株式会社梓設計、株式会社アーキボックス
- 設計・施工者:大成建設株式会社
- 施工者:株式会社渡辺組
- 【ホテルコメント横浜関内】
- 事業者:スターツコーポレーション株式会社
- 設計者:スターツCAM株式会社 建設技術本部 一級建築士事務所
- 施工者:スターツCAM株式会社



丸山台自治会
令和7年度地域まちづくり事業助成金交付申請
【活動計画書兼事業計画書】

1 まちづくりの経緯（丸山台第二自治会館の活用について）

港南区丸山台地区は、区の西部、横浜市営地下鉄ブルーライン上永谷駅南西に位置しており、昭和50年代に土地区画整理事業によって開発された住宅と店舗等の生活利便施設を中心とする住宅地で、現在も地区計画により良好な住環境が保たれています。当該地区の自治会である丸山台自治会は、商店街などと連携し、地域交流や防災、季節行事など、さまざまなテーマで多世代向けのイベントを開催し、地域のつながりづくりに取り組んでいます。

丸山台自治会は、宅地開発の過程で、駅近くに比較的大きな面積を持つ第一自治会館と、住宅地の中に位置する小規模な第二自治会館の二つの自治会館を所有しており、自治会活動の中でコミュニティサロンを運営してきましたが、他の地区と比べて、地域の方々が気軽に立ち寄り多世代が交流できる居場所が少ない状況です。サロン活動は2021年に開始し、これまでフレイル予防体操・スマホ教室・盆踊りサークル・写経教室を継続するほか、今年度からは誰でも自由に参加できる卓球開放日を週1回設け、子どもから高齢者まで多世代が参加しており、主に第一自治会館を拠点として実施しています。

このサロン活動は、当初、使用頻度が少ない第二自治会館での実施を予定していましたが、コロナ禍の時期に開始したため、広いスペースを確保できる第一自治会館で行ってきました。しかし、コロナ禍の収束に伴い、第一自治会館では自治会行事や他団体への貸し出しが増え、サロン活動の拡充が難しくなりました。そのため、当初から計画していた第二自治会館での活動への移行を目指し、3年前に、第二自治会館を活用した多世代が気軽に立ち寄れるコミュニティサロンの整備について、ヨコハマ市民まち普請事業へのチャレンジを検討しましたが、地域として活動の方針がまとまらず、断念した経緯があります。

このたび、改めて地域で今後の活動方針について話し合った結果、これまで第一自治会館で行ってきたサロン活動を第二自治会館で開催するとともに、**様々な方が楽しみながら関わりやすい「食」を中心としたテーマで、多世代が交流できる取組を進める**ことになりました。さらに、今後は近隣地域で活動されている方々との協力事業や、子育て拠点として活動されている方々との連携も視野に入れています。こうした取り組みは、くじら計画（第4期の永野地区地域福祉保健計画）の目標である「だれもが楽しく年を重ねられるまちにしましょう！」の実現にもつながるものです。

（第4期港南区地域福祉保健計画（令和3～7年度））

資料1

○くじら計画（地区別計画、永野地区）

1 だれもが楽しく年を重ねられるまちにしましょう!	
多世代(子どもから高齢者、要支援者、障がい者まで)の誰もが生き生きと暮らせるまち(永野)を目指して、健康づくり、楽しいイベント開催、居場所づくりや、困った時の見守り、助け合い活動を充実させましょう。	
目 標	主な取り組み
多世代が交流できる楽しいイベントや居場所づくりに取り組みます	<ul style="list-style-type: none"> ● 多くの人達が集える体育祭、夏祭り、各自治会・町内会主催のイベントの開催 ● 高齢者サロン・食事会や子どもが集える場の構築 ● 各自治会・町内会の会館やくじらの館、ケアプラザ等の有効活用
日常的に健康づくりに取り組みます	● ラジオ体操、健康づくり教室、ウォーキングなど、健康づくりの強化
助け合い/見守り活動に取り組みます	<ul style="list-style-type: none"> ● 各自治会・町内会ごとの助け合い活動や見守り体制を構築 ● 地域の実態に則した福祉ネットワークのリニューアル(再構築)
自治会・町内会、各種団体同士の繋がりを大切にします	● 永野連合、地区社協、委嘱団体、地域防災拠点や各自治会・町内会同士の連携強化

「だれもが楽しく年を重ねられるまちにしましょう！」では、高齢者サロンや食事会、子どもが集える場の構築など「多世代が交流できる楽しいイベントや居場所づくり」や「日常的に健康づくりの推進」が目標として掲げられています。

この目標達成に向け、丸山台自治会では、第二自治会館を活用し、ヘルスマイトや民生委員、地域で支え合い活動を行う団体と連携しながら、「食」を中心とした多世代が交流できる取組（既存のサロン活動に加え、新たな取組）を進めたいと考えています。



丸山台第二自治会館

具体的な取組として、毎月決まった日に茶話会や食事会を開催し、地域の方々に活動を知っていただくとともに、「食」をテーマにした講座を年間計画で実施し、多世代を対象とする健康的な食事や調理法等のワークショップ・教室・講座の開催を想定しています。さらに、民生委員が実施している高齢者向け食事会について、第二自治会館でも開催し、地域のつながりを深めていく予定です。

また、現在、シニア男性グループが第二自治会館を拠点にシネマサロン活動を希望しているため、おいしいコーヒーを淹れる活動とコラボできるようサポートします。さらに、1階のキッチンを活用したイベントに親子でも参加しやすいよう、2階スペースを子どもたちの読書や勉強の場として整備し、親子で集える環境づくりにも取り組んでいきます。

【想定される活動】

ヘルスマイト※1

- ・災害時の食事レシピの講習会(防災サロン)、子ども向けの食事プログラム(子ども食堂)、子ども向けのパン・ケーキ作り教室(子どもサロン)、離乳食・健康食教室(子育てサロン)など



※1 食生活等改善推進員(ヘルスマイト)は「私たちの健康は私たちの手で」をスローガンに「栄養・運動・休養」の三本柱のもと、健康づくりの普及活動を行う、全国的に組織されたボランティア団体(港南区78人)。健康づくりを実践することを活動の基本とし、その体験に基づいた健康づくりの知恵や工夫を地域に広めています。

さわやか港南※2

- ・月1回の食事会(つどいの場)など(将来的には、配食サービスなどを行う可能性も視野に)。

※2 「さわやか港南」は、横浜市港南区やその近隣区において『困ったときはお互いさま』という助け合いの精神で会員相互にサポートし合う「有償サービス」や、だれでもが集える「地域の居場所」の提供を行う団体。自治会・町内会、地区社会福祉協議会、区役所などの関係団体と連携をとりながら各種支援サービス・生活相談などを行っています。

さわやか港南



2 助成金を受けて行う整備（事業）の目的

本助成金を受けて行う整備は、サロン活動の拠点として想定している丸山台第二自治会館1階集会室内にある「キッチン設備の拡充」です（位置図資料2）。

現在のキッチン設備は、作業スペースが狭く、複数人で同時に作業することが難しいうえ、キッチンが壁で囲まれた区画になっているため、調理をしながら交流できるイベントを行うのは困難な状況です。



既存キッチン全景



既存キッチン



既存キッチンにつながるオープンスペース



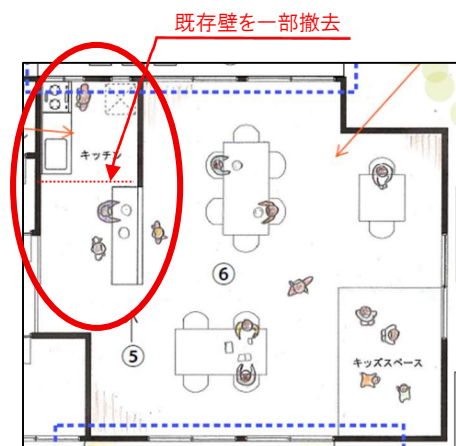
【現状のキッチンの課題】

- ・キッチンが壁で区画されており、調理をしながらの交流が難しい
- ・キッチン設備が十分ではなく、調理を行う環境が整っていません。
- ・作業スペースが狭く、複数人で作業ができない

【キッチン・設備等の拡充整備の内容】

既存のキッチンを囲んでいる壁の一部を撤去し、人々が集うオープンスペース側を向いて調理できるよう、新たにキッチンを整備します。これにより、調理スペースを一体化して広さを確保し、既存設備を活用しながら複数人で調理できる環境が整います。そうしたキッチンスペース・設備の拡充整備により、「食」を通じて自然な交流が生まれ、地域の多世代が集う場として活用できるようになります。

既存のキッチンやレンジ等はそのまま活用するなど工事費の節減に努めるとともに、将来的に営業許可が必要となる活動も行えるよう可能な範囲で配慮した形での整備を考えています。



整備後の活用イメージ

3 助成金申請事業の位置付け

本事業は「くじら計画」(第4期の永野地区地域福祉保健計画)に記載された内容に基づく取組を支援するための地域まちづくり事業です。

横浜市地域まちづくり支援制度要綱第22条第2項第5号に該当し、助成対象だと考えます。

<横浜市地域まちづくり支援制度要綱>

第22条 市長は、地域まちづくり活動団体が地域まちづくりプランその他これらに類する計画に基づいて行う市街地等の整備（以下「地域まちづくり事業」という。）に要する経費の一部を助成することができる。

2 前項の助成金の額は、予算の範囲内で、かつ、次の各号に掲げる金額を限度とする。

- (1) 地域まちづくりプランに基づき実施する地域まちづくり事業 500万円
- (2) 協働推進方針に基づき実施する地域まちづくり事業 500万円
- (3) 都市計画マスタープラン地区プランに基づき実施する地域まちづくり事業 500万円
- (4) 地域まちづくりプランの策定が見込まれる地域まちづくり組織が策定したその他のプランに基づき実施する地域まちづくり事業 150万円
- (5) 地域福祉保健計画（地区別計画）等区役所が区民等との協働により策定した地区のまちづくりに関するプランに基づき実施する地域まちづくり事業 100万円

4 交付申請する事業計画

(1) 申請事業の内容（見積もり資料3）

No.	内容	写真
1	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のキッチンを囲んでいる間仕切り壁を一部解体・撤去 ・設備配管工事のため、既存床の一部解体 ・給排水の分岐及び切り回し ・新規キッチン延長部分 上部下がり壁工事 ・背面に新規カウンターの取付 ・換気扇ダクト工事(梁型囲い)+フード取り付け ・換気扇用壁天井地下地補強 ・改修に伴う発生材処分 <p>➡キッチン改修関連工事</p>	
2	<ul style="list-style-type: none"> ・システムキッチン（新規）W=1950 キッチンパネル一式 現場配送、取付施工 ・床下収納、金物、巾木等附属品一式 <p>➡設備機器・建材</p>	

3	<ul style="list-style-type: none"> ・電気温水器 ・ブレーカー増設（IHコンロ・温水器用） ➡電気温水器・電気工事 	資料
---	---	----

(2) 事業の概算金額

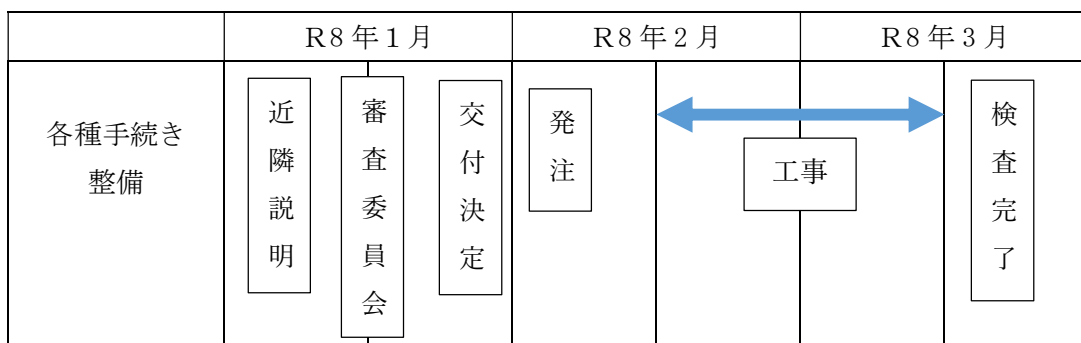
No	工事項目	金額
1	キッチン改修関連工事	816,000 円
2	設備機器・建材	623,000 円
3	電気温水器	231,000 円
4	電気工事	153,000 円
	諸経費	131,546 円
	工事費合計	1,954,546 円
	消費税	195,454 円
キッチン改修工事の合計		2,150,000 円

(内訳)

地域まちづくり事業助成金	1,000,000 円
丸山台自治会負担	1,150,000 円

(3) 事業のスケジュール

当該申請に対する事業交付金決定後に工事着手し、令和8年3月下旬に完了予定です。



5 事業の実施による予測効果

丸山台自治会では、高齢化や担い手不足、役員の高齢化によりサロン活動の推進が難しくなっています。本事業の実施し、居場所づくりを進めることで、地域の多世代交流が促進され、若い世代の地域活動への関心が高まります。若い世代の参加を促し、地域活動への関心を高めることで、将来の担い手の発掘につながると考えています。また、高齢者が孤立せず、人と関わる機会を増えることで、健康寿命の延伸にも寄与します。こうした取り組みにより、地域のつながりが強化され、見守りや助け合いの基盤づくりが進むことを期待しています。

具体的な活動としては、月に1回の茶話会または食事会の開催、食を中心とした講座等の開催、丸山台にお住まいの高齢者向けの食事会の開催、サークル活動への支援等を行う予定です。また、2階部分は読書や勉強などで子ども達に使用していただけるよう考えています。

< 来年度のスケジュール（予定） >

	R8年5月	R8年6月	R8年7月	R8年8月	R8年9月
月1回の茶話会または食事会	◆	◆	◆	◆	◆
食を中心とした講座等		◆			
丸山台にお住まいの高齢者向け食事会	◆				◆
サークル活動への支援	◆	◆	◆	◆	◆
こども向けイベント等			◆	◆	

6 事業計画実施状況の地域説明

12月7日の丸山台自治会役員会において、自治会長より本申請について説明を行うとともに、1月12日に、第二自治会館周辺にお住まいの方に対しても事業計画について周知を行いました（資料6）。

7 施設の維持管理

申請者であり、丸山台第二自治会館の所有者である丸山台自治会にて、適切に維持管理を行います。なお、丸山台第二自治会館は、築50年近い建物ですが、約5年前に雨漏りの修繕を行い、3年前には耐震診断を実施し、安全性が確認されています。

永野地区の基礎データ(令和2年9月概算値)

人口 29,800人 世帯数 13,700世帯

高齢化率 27.1%

地域概況

かつて、永野地区全体は自然に富む谷戸と古道古跡の残る豊かな土地でした。「永谷十勝」には「菅公筆塚」「貞昌(院)の晩鐘」「馬洗川の清流」「島越の夕照」などの名所があります。

また古道などがあったことを伝える碑や石仏などが点在し、歴史の宝庫と呼ばれています。

一方、永野地区は港南区内で最も大きな地区で、連合加入は約8,500世帯(11自治会・町内会)あります。

また、永野地区を地図で見ると「くじら」の姿に似ていることから、私たちの地域福祉保健計画を「くじら計画」と呼んでいます。

くじらが元気で泳ぐように、私たちも永野地区の3つの基本目標である「くらしをじぶんたちがらくにする」を推進していきましょう。

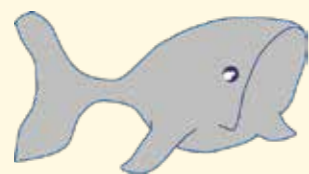


第4期計画策定にあたって

第4期計画を策定するにあたり、皆さんから頂いたご意見や今までの活動をもとに、永野連合に加入している自治会・町内会を中心に、社会福祉協議会、民生委員、消費生活推進員などの各種団体、シルバークラブ、ケアプラザ、区役所の代表の皆様と全体会議を含む意見交換を積み重ね進めてきました。

今までの活動は継続しつつ、少子高齢化、担い手不足や地震などの災害、8050問題、新型コロナウイルスをはじめとする新たなウイルス等の蔓延などに対応する必要があります。

今後、色々な難問に遭遇しても、それらを乗り越えて、明るく、楽しく、伸び伸びと生活出来るまちづくりを目指します。



5年先を見据えた永野のチャレンジ

私たちは住み慣れた地域で多くの人と出会い支え合いながら暮らしています。そんな暮らしの中でも自分や家族だけでは解決できない困りごとがあります。福祉活動は困った事が起きて、これまで繋がった友人、知人との関係を維持し、スポーツや様々な趣味の目的別コミュニティや社会活動に参加することで、自分らしく誇りをもって普通の生活を送ることが出来るようになることです。

困りごとを抱える人は、高齢者、障がい者、認知症の方やそれらの家族だけではありません。誰でもいつ何時困りごとを抱えるかもしれません。

困った人がどこにいるか?どんな困りごとを持っているのか?どのように手を差し伸べて良いか解らないこともあります。

そこで永野地区では、迅速に対応できるように、困った時の繋がりやヘルプの依頼先などの情報をインターネット等を使って発信したり、気楽に素早く対応出来る仕組みづくりにチャレンジします。

第4期のくじら計画は永野連合加入の11自治会・町内会、各種団体等の皆さんと作成しました。



永野地区の3つの基本目標

くらしをじぶんたちがらくにする

くじら計画を推進しよう!

誰もが住み慣れた地域で安心して楽しく生活できるよう、地域をみんなにより良くしていくための計画です。



くじらは永野地区のシンボルマークです

1 だれもが楽しく年を重ねられるまちにしましょう!

楽しいイベント



お餅つき

健康づくり



ラジオ体操

高齢者・要支援者・障がい者



障がい者講演会

見守り・支えあい



敬老祝賀会

2 子どもが伸び伸び育ち、愛着がもてるまちを作りましょう!

子どもが愛着をもてる



夏祭り

子どもが楽しめる



そうめん流し

子どものイベント



ハロウィン

多世代交流



連合体育祭

3 清潔で安全なまち「永野」のくらしを楽しみましょう!

住みよい環境づくり



清掃活動

防犯・防火



防犯パトロール

防災・備え



放水訓練

助け合い



高齢者宅の剪定

■位置図

